

平成 26 年度前期 ME 養成講座

—女性受講生にインタビュー—

平成 20 年から始まった ME 養成講座は、今までに 189 人が修了し、そのうち 5 名が女性です。平成 26 年度前期 ME 養成講座では受講生 31 名のうち 2 名が女性受講生でした。2 名の女性が同時に受講するのは初めてであり、折角の機会ですのでお二人の受講生にお話を伺いました。

インタビューは、ME 養成期間中の平成 26 年 6 月 18 日に工学部附属インフラマネジメント技術研究センター内で行いました。



掛 園恵さん

日本ミクニヤ株式会社 環境防災部所属

平成 13 年度に入社して以来、橋梁やトンネルなどコンクリート構造物の調査・点検に携わってきました。現地調査はとても地道なものです。無口な構造物の SOS をキャッチできるのは、私たち現場の点検員だけ！という気持ちで日々取り組んでいます。



加藤 真弓美さん

株式会社ユニオン 設計部所属

平成 13 年度に入社して以来、岐阜県を中心として道路・交差点改良、舗装修繕、災害防除等の設計業務に携わってきました。

自分が担当した現場が施工され、形になって残ることにやりがいを感じています。忙しいながらも充実した毎日です。

—この ME 養成講座をどこで知りましたか。

掛 元々中部地方で、既設構造物の点検業務をしていたので、その時お客さんから ME の話は伺っていました。一昨年くらい前から、県外業者も参加できると聞いていたので今回参加しました。

加藤 所属が県内の会社なので、元々社内に ME が 3 名います。しかし、これから社内では、一定の役職に就いた人は ME を受講する方針になり、今回私が受講することになりました。



—ME 取得後どのようなところで活躍していきたいですか。

掛 　　まず、この講座に行かせてくれた会社に、何を持ち帰れるのかを考えたい。現在、チームの後輩たちに資格を取りなさいと言っているが、彼らのことを考えると、まずこの ME 養成講座を受講できるような人材になることを目指して欲しいと考えています。なぜかという、ME の受講資格が 20 代前半ではなかなか難しいので、社内で責任が持てるような土木技術者になってから、受講しないといけないと思う。

　　また、大阪から、初の ME 養成講座受講者なので、ライセンス取得後に大阪で何が出来るかを考えていきたいです。岐阜で現在行っている ME の会の活動を、大阪でそのまま実施しようとしても難しいと思うので、出来ることを探しながら仲間を見つけて、広げていきたいと思えます。

—現在、国は女性の活躍、女性の学び直しにとっても力を入れている。その中で、もっと女性が ME 養成講座を受講してもらうことが望まれますが、どのようにしたら、女性を増やせるのでしょうか。

掛 　　ME を活用して、土木技術者としての活躍する場を広げようとしたり、貢献しようと思った時に、自己アピールが上手にできるのは女性かもしれません。しかし、女性を増やせば何か変わるということには疑問を感じています。

　　私も加藤さんも、今ほど女性にとって職場環境が恵まれていないときから、仕事をしているのですが、最近になって国の方針もあり、とても環境が改善されて優遇措置も出てきたように感じます。しかし、特別に優遇してもらい続けると、甘えが出てくるのではないかと心配です。

加藤 　　最近、女性の方が、男性よりも元気がいいと思うのもあるかもしれませんが、5,6 年前なら、男性が上に見られていたので、女性が 1 ヶ月業務を休んで ME 養成講座を受けるということは出来なかったと思います。だから、今回会社が行かせてくれたのが、私はとても不思議でした。また、会社も変わろうとして決断したのだと思っています。

—女性の ME 受講者が少ないのは、女性の土木技術者が少ないことが問題と思いますが、この分野に女性を増やすことはできますか。

加藤 　　その辺りは、先に入った私たちが頑張って、世の中に認められる努力をする必要があると思います。ME を取得して、活動し続けていけば、他の会社も ME 養成講座に女性を送り出そうという雰囲気は出来ると思います。

掛 　　現在、会社で求人セミナーにも参加しているのですが、セミナーに参加する女子学生が 5 割程度のときもあります。また、学校側からも受け入れてくれるのか聞かれることが増えました。なので、今後こちらの業界に来る女性は、多くなるかもしれません。

私は、行政が女性を積極的に採用するだけでなく、民間企業も多くしないといけないと思うのですが、会社からしてみると、先ほど話したように、結婚・出産をして辞める人が多くいるので、リスクを感じる部分は多いのかもしれない。

—現在追い風が吹いているのだから、女性 ME を増やしていくいい機会かもしれないと思うのですが。

掛 　　そうですね。ME では女性も活躍していることを、対外的にアピールしていけば、今後女性技術者がいる会社で ME 養成講座に出そうという気持ちになるかもしれませんね。



—ME の女性を増やすには、会社の意識改革が重要ですか。

掛 それと、女性自身の意識改革も必要と思います。

加藤 そうですね。女性に限りませんが土木技術者としてのキャリアプランを立てた時に、ME 養成講座はとても良いと思います。

—女性土木技術者として、どのようなキャリアプランを立てますか。

掛 結婚・出産で離職と考えると、5年・10年の技術者にしかなれないけれども、60・65歳まで働くのであれば、ME 養成講座を受けて、女性技術者も長く勤められる実績が、今よりさらに多くなり、会社も気兼ねなく送り出してくれるのかもしれない。

—家庭を持っていると1ヶ月にわたるME 養成講座は受講することが大変難しいと思うのですが。

両人 そうですね。

加藤 土木技術者女性の会というのがあって、そこでイベントを実施するときは託児所が必ず用意してあり、子連れで参加する人もいます。

掛 そうですね。でも、ME 養成講座に限ったことでなく、男性が1ヶ月家を空けることは誰も止めないですが、女性と同じ期間空けるとなると、家族のこと考えろと言われると思う。なので、制度だけでなくみんなの意識改革をしていかないと解決は出来ないと思います。

加藤 育児だけでなく、ある一定の年代になれば親の介護も必要になってくる。そのサポートも考えてもらいたいところです。

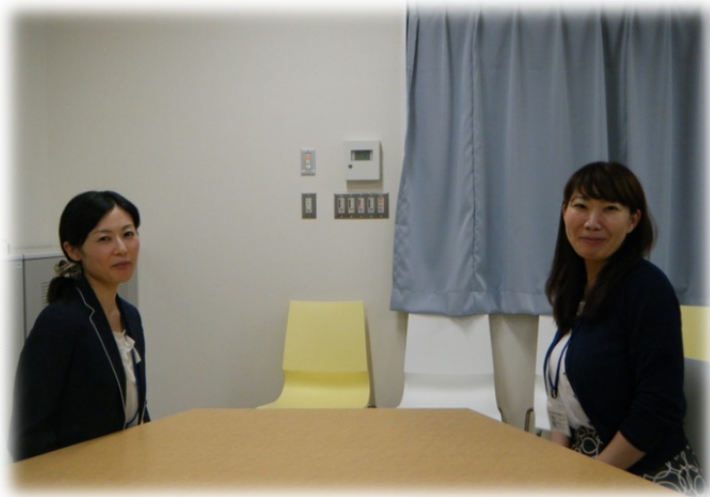
—ところで、今回初めて女性二人が同時での受講となったのですが、どうですか。

加藤 ME 養成講座を女性一人で受けるのは、それなりに大変と思います。

掛 そうですね。加藤さんがいてよかった。たぶん、一人でも一か月過ごせるとは思いますが、二人なので気軽に相談もできて心強いし、精神的にも助かってます。

—ぜひ、ME を取得してME 女性の会を作ってください、活躍してください。

本日は、どうもありがとうございました。



それでは、ME 養成講座の無事修了と、修了後1か月後に行われる認定試験の合格をお祈りするとともに、益々のご活躍を祈念いたします。

